

【コース】 人体の構造と機能 1

【コースディレクター】

CD：永島 雅文(解剖学)

CD 補佐：栗崎 知浩(解剖学)

【コースの概要】

「人体の構造と機能 1」コースでは、医療における課題を自ら解決する意欲と探究心を持ち続けるためにヒトの体の全体像を理解することに主眼が置かれ、学期ごとの3ユニットで構成される。「人体の構造と機能 1-1」ユニットでは、ヒトという生物の位置づけと特徴を考えるとともに、運動を成立させる骨や筋肉の構造を学習する。「人体の構造と機能 1-2」ユニットでは、呼吸・循環・消化などの生命現象の構造基盤と、感覚と運動に関わる神経系の基本概念について学習する。「人体の構造と機能 1-3」ユニットでは、組織学と発生学の基本を身につけるための顕微鏡実習、肉眼解剖学の標本観察、診察体験を通じた神経機能の観察、さらに体の障害に対するアプローチとして臨床現場の実例が紹介される。

【目 標】

人体の構造と機能を学習する上で基幹となる概念を理解する。

ヒトの体の全体像をそのなりたち（発生と進化）に基づいて把握する。

【学習方法】

講義と実習により学習する。講義ではさまざまな構成要素の形態と、それらが形成される過程（発生と進化）、さらに構造に関連してどのような機能が営まれるかが解説される。さらに臨床現場から、体の構造や機能の障害に対してアプローチする実例を紹介する授業も組み込まれている。各種の標本観察や診察実習などの体験学習は極めて有効な学習機会であるから、主体性をもって取り組んでほしい。尚、授業の形式に含まれる講義と実習は毎回厳密に出欠を確認する。出席に関しては実習の時間も講義として取り扱う。形成的評価として実施する授業内の小テストについては、当該授業(教材)中で解答と解説を提示する。

【評価方法】

学期末に定期試験を行う。定期試験の形式は MCQ 形式 50%、記述式 50%とする。ユニットの成績は定期試験の成績のみにて評価する。ユニット内で実施する実習の評価は成績に加味しない。

総合評価では 65%を合格基準とする。再試験は 1 回行う。再試験は定期試験と同じ形式とし、合格基準は 65%である。

【指定教科書】

- ◆ 日本人体解剖学 上巻（南山堂）第 20 版
- ◆ 日本人体解剖学 上巻（南山堂）第 20 版
- ◆ 診察ができる vol.1 身体診察（メディックメディア）第 1 版

【参考書】

- ◆ 標準組織学 総論 (医学書院) 第6版
- ◆ 標準組織学 各論 (医学書院) 第6版